

(別紙様式)

都道府県番号	14
都道府県名	神奈川県

()

該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

南足柄市立南足柄中学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	3	4	3				2	12		
児童数	103	121	120				2	346	24	

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ)</p> <p>「個を生かし確かな学力を身につけるための指導の工夫」 - 基礎・基本の重視と個に応じた指導を通して -</p> <p>・テーマの設定の趣旨</p> <p>「確かな学力」を「単なる知識の量だけでなく、知識や技能を身につけ活用する能力、学ぶことへの意欲・やる気、自分で考え判断する力、自分を表現する力、問題を解決し自分で道を切りひらいていく力などの総合的な力」ととらえた。そして、「確かな学力=生きてはたらく力」とし、基礎・基本をしっかりと身につけ、個に応じた指導の充実を図ることで、「確かな学力」を育みたい。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

研究への取組は、まず、事業の趣旨やねらいを共通理解し、「学力」と「基礎・基本」に対する考え方を明確にすることからスタートした。次に、生徒や地域の実態に即した研究テーマ、研究内容、推進体制づくりに着手した。

特に、研究体制については、教科研究部とは別に、少人数指導及びTT指導、習熟度別指導などに関する研究を行う「新しい学習」研究部を設けた。また、研究の成果や課題を明確にするために、調査研究部を設け、生徒・保護者・職員それぞれの意識調査を実施するとともに、計画的に評価していくようにした。さらに、情報教育部を中心にホームページ開設に向けての準備を進めることとした。

() 実践研究の内容

1 個に応じた指導方法、指導体制の工夫・改善(「新しい学習」研究部の取組)

(1) 生徒や地域の実態を踏まえて、少人数指導や習熟度別指導、TT指導を通して、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導に努め、学力の向上を目指す。

- 数学科における少人数指導による習熟度別グループ編成への取組
 (1 クラスを習熟度に応じて、2ないし3グループに分けて指導)
- 英語科におけるTTでの個別指導、習熟度別指導、自己評価活用の取組
 (単語・音読等の個別指導・自己評価カードの活用他)
- (2) 各教科で個に応じた指導の充実に努め、基礎・基本の定着や自ら学び自ら考える力の育成を図る。(TT指導や問題解決的な学習など)
- (3) 学力向上に向けてのよりよい学習環境づくりを目指し、朝読書の実施や学級活動の充実に努める。
- 2 個に応じた指導のための支援及び評価の在り方(教科研究部の取組)
- (1) 個に応じた指導法の工夫と教材開発(地域の学校と教材開発や指導の共有化)
- (2) 一人ひとりの学習目標を明確にする評価の在り方の研究と実践
 (ポートフォリオファイルの活用、自己分析シートの活用等)
- (3) 幼・小・中の一貫性に立った指導の在り方(基礎・基本の徹底、読書指導等)
- (4) 総合的な学習の時間を通じた学びづくり
 (体験を通じた、問題解決的な活動の充実)
- 3 その他
- (1) 教育活動についてのアンケート調査(調査研究部の取組み)
 生徒、保護者、教師に対してアンケート調査を実施し、今年度の取組についての反省と来年度に向けての課題の設定。
- (2) ホームページ開設に向けての準備・研究(情報教育部の取組み)
 来年度のホームページ開設に向けての準備。校内研究に関するまとめ。

() 成果と課題

成果

1 「学力」のとらえ方の明確化

子どもの「学力」というものを、記憶され蓄積された知識や技能の量や程度としてのみ考えないで、学習者の思考力・創造力・判断力・選択力・表現力なども併せてとらえ、これらを知識・技能と同時に重視して考えた。また、学習への関心、自ら学ぶ意欲、学習態度などを一層重視し、いわば学習者の成長・発達に基づきながら、将来の生活に生きてはたらく資質や能力を最も基本的なものとしてとらえ、「学力」と考えていくこととした。

また、新教育課程で育てたい学力については次の ~ を考えた。

(県教育課程研究会及び校内研究会講演会より 日本女子大学 吉崎静夫教授)

基礎的な学力A：読み・書き・計算

基礎的な学力B：学習指導要領に明示されている目標と内容に基づく教科等の学力

発展的な学力：教科の学習を発展させる。選択教科において子どもたちが、自らの興味・関心に基づいて必修教科の内容を発展させることで身につく学力

実践的な学力：教科等で身につけた学力をふまえながら、現実の社会的課題や自らの生き方に関わる課題を発見し、解決しようとする学力

学力について具体的に分析することで、それぞれの学力の向上に向けて具体的な方針が立てやすくなり、指導体制や指導法の工夫などにも結びつけることができた。

2 「新しい教育」研究部

数学科では、少人数指導を年間通して実施することができた。その中で、習熟度別指導についていくつかの方法を試みたり、授業のまとめの段階で、従来はクラスを二つに分けていたものを三つに分けてきめの細かい指導を進めることができた。また、少人数のため、子どもたちの発言を生かした指導ができ、学習意欲を高めることができた。習熟度別の授業では、補足的な学習から、発展的な学習まで個に応じた指導ができた。

子どもたちの感想の中にも、「分からないときにすぐに聞ける」「発言しやすい」「自分の力に合わせて学習ができたのがよかった」「集中できる」等、好意的なものが多かった。

英語科では、T T指導の研究を進める中で、T T指導の形式が、時には少人数指導、あるいは個別指導などの場面に柔軟に対応できるなど、多くの可能性を秘めていることを実際の授業の中で検証することができた。

3 教科研究部

各教科で、個に応じた指導のための支援及び評価の在り方についての研究を進めることで、子どもたちが授業に生き生きと参加できる雰囲気作りに取り組むことができた。

課題

新学習指導要領が完全実施されるなかで、「学力低下」が心配されているが、それ以前の問題として「学習意欲の低下」であり、このことが「確かな学力を身につける指導のあり方」についての研究をスタートするにあたっての大きな課題であると感じた。

今後の課題としては、

個に応じた指導や習熟度別指導の一層の充実
学習への意欲づけを図る指導法の工夫・改善
基礎・基本の徹底と学習に遅れがちな生徒への指導・支援
学力の積み上げを図るための幼・小・中の連携指導のあり方
子どもの学びを適切に評価し指導に生かすための工夫
学校・保護者・地域が一体となって取り組む新たな学習づくり
(学習支援ボランティアの協力)

などが挙げられる。

今年度の研究の積み上げに立って、四つの学力それぞれについて、集中した取組を進められる校内研究体制を再構築することと、南足柄市の特色である、幼・小・中の連携を生かした取組等を具体的に進めていくことが、来年度の研究の大きな柱である。

() 成果の普及方策

平成14年10月1日(火)

第2回足柄下・小田原地区指導方法改善研修会にて研究経過報告

平成14年10月28日

第2回足柄上地区指導方法改善研修会にて研究経過を発表

平成14年11月14日

南足柄市教育研究会研究発表大会にて、研究の概要、進行状況の報告・発表